

■研究概要

テーマ:小児がん患者におけるオピオイド副作用発現状況に関する調査研究

【背景:研究の必要性】

成人を対象とした緩和ケア領域と比較し小児緩和ケア領域の論文は非常に少なく、その一因として小児緩和ケア領域では症例数が少なく、症例集積が難しいことが考えらる。国内においても成人のがん緩和ケア領域では、多くの研究成果が報告されているが、小児緩和ケア領域の報告はごくわずかである。小児がん患者のがん疼痛に関する薬物療法のガイドラインは国内では発表されておらず、国際的な小児の疼痛管理指針としては 2012 年世界保健機構 (WHO) から薬理学的疼痛管理指針の改訂版が発表されているが、国内において使用が出来ない薬剤の記載も多い。成人領域では日本緩和医療学会からがん疼痛の薬物療法に関するガイドラインが発表されているが、小児に関するエビデンスは乏しく、成人との相違に十分な配慮が必要である。また一方で、国内の小児がん患者の疼痛に対するオピオイド使用やオピオイド副作用に関する実態は把握されていない。

そのため、小児緩和ケア領域に携わる薬剤師は日々情報不足を感じ、小児緩和ケア領域でのオピオイド使用に関する臨床データ集積の必要性を感じていると考える。

そこで今回、日本緩和医療薬学会の会員を通して小児緩和ケアに携わる薬剤師を対象にアンケート調査を行い、薬剤師の意識と小児緩和ケア領域でのオピオイド使用に関する実態を調査する。実態の把握が小児緩和ケア特有の課題を明確することに繋がると考える。

【研究目的】

小児緩和ケアに携わる薬剤師の意識と小児がん患者へのオピオイド使用の現状の把握

【具体的な試験方法】

試験デザイン:アンケートによる調査研究

対象:病院に勤務する緩和薬物療法認定薬剤師

緩和医療薬学会会員に向けてアナウンスを行い Google フォームを用いアンケート調査を実施

アンケート回答期間は 3 カ月程度

アンケートの回答は代表者にて 1 施設 1 回答で実施

アンケート調査項目に関しては下記記載

【期待される結果】

小児緩和ケアに携わる薬剤師の意識と小児緩和ケア領域でのオピオイド使用の実態の把握

【アンケート調査項目】

全 17 質問 回答時間はおよそ 5 分